



編集・発行／札幌くらぶ 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付  
ホームページ <http://sakyoclub.net/sakyoclub/>

## 第17回札幌くらぶサロン

# ジュピターの聴き比べとアルペッジョーネ

TAKESU MEMORIAL SALON 第17回札幌くらぶサロンが3月5日(日)に

豊平館広間で開催され、過去最多の85名の方たちにご参加いただきました。

最後にモーツァルトの41番をアーカイブで。荒谷さんとシュヴァルツさんの聴き比べもあり、興味の湧く楽しいプレトーク。6月定期600回記念のボンマーさんのモーツァルトも楽しみに。

### 第2部

#### すっかり心も豊かに

第2部は「サロンのミニコンサート」、副首席ヴィオラ奏者の青木晃一さんとピアノの石田敏明さんの登場です。緋色の絨毯とカーテンと豪華なシャンデリアの豊平館広間、そこでワインを飲みながら聴くヴィオラとピアノの音楽に、すっかり心が豊かになりました。

**第1部**  
**興味湧く楽しいプレトーク**  
第1部は「札幌定期演奏会プレトーク」。ナビゲーターの八木幸三先生に4月から8月までの定期演奏会の聴きどころをお話いただきました。まず誰もが知っているスターウォーズのテーマで始まり、次にそれに似たかつこ良いテーマが...。ずっと先に作曲されたコルンゴルトの曲でした。4月定期のヴァイオリン協奏曲が今から楽しみです。

次に7月定期で演奏されるショスタコーヴィッチの5番について、作曲されるまでの経緯が話され、札幌のアーカイブで予習しました。



だが、音域がとても広くて素敵な大曲でした。

最後はエネスクの「演奏会用小品」。ヴィオラ弾きにとっては絶対品に避けては通れない曲のように、青木さんも大学入試の時やコンクールの時に弾いたとの事、たくさんのブラヴォーが飛びました。アンコールも2曲あり、最後の最後は「早春賦」。春が早く来てくれる事を願いながら全員で歌ってミニコンサート

とも終了です。青木さんのヴィオラの豊穣な音色に、寄り添った石田さんのピアノもとっても素敵でした。

### 第3部

#### サイン会に行列

第3部は恒例の交流パーティー。鈴木会長代行の乾杯の挨拶で始まり、西川副会長の中締めで終宴となりました。

青木さんの特大ポスターのサイン会には行列が出来ましたが、一人一人とお話をしたり写真を撮ったりと丁寧な対応に皆さんも感動し、宴は盛り上がりました。

7月29日と8月5日には道内で

演奏会があるようで、早くも「みんないっしょにツアーで行こう！」と計画を立てている会員もいました。次回、第18回のサロンはこの豊平館にて6月3日開催です。今回のサロンは初めて定員オーバーで何名かをお断



わりする事態となりましたが、今後もこうあつてほしいなと、うれしい悲鳴の上野です。

担当/上野文博



### 次回サロンのご案内

6月3日(土) 午後6時より  
豊平館2階広間にて  
札幌くらぶ定期総会  
札幌早エロ小野木遼さんの演奏!

お待ちしております

# 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸三 (札幌くらぶ顧問)

5月〜7月 定期演奏会 6月名曲

## 第599回定期演奏会

5月19日(金) 19:00  
5月20日(土) 14:00  
指揮 ハインツ・ホリガー  
独唱・合唱  
ラトヴィア放送合唱団

ハインツ・ホリガー

© D.Vass



■ シューマン ミサ・サクラ

元々教会音楽とは無縁だったシューマンは、カトリックの町であるデュッセルドルフの音楽監督を引き受けたとき、教会での活動が職務に含まれた。そして「レクイエム」

ラトヴィア放送合唱団

© Matis Markovskis



■ マーラー

アダーージェット

交響曲第5番より

冒頭のトランペット独奏による特徴的なファンファーレではじまる交響曲第5番は、マーラーの交響曲の中でも演奏回数が断然多い人気曲だ。その大きな理由となっているのが、第4楽章の「アダーージェット」。ルキノ・ヴィスコンティ監督の映画「ベニスに死す」のテーマ曲として一躍有名になったこの曲は、「死の嘆き」や「生の勝利」といった重いテーマを感じさせる交響曲第5番の中で、「愛の世界」を描く耽美な旋律が多くの人々を惹きつけているからだろう。

マーラーが第5番を作曲している最中、「運命の女性」として出会ったアルマ・シントラーへの熱烈な想いが、当初、交響曲の構想には無かったこの曲を作りあげた。

■ マーラー (ゴットヴァルト編)

「夕映え」

クリトウス・ゴットヴァルトは、原曲のさまざまな言葉と音型を切り取り、その作曲家にまつわるモチ

ーフを足し、コラージュ風に再配置。新しい容姿に生まれ変わらせる独特の作曲(変曲・変作)技法で知られるユニークな人物。この曲は、マーラーの「アダーージェット」を合唱曲に編曲している。ラトヴィア放送合唱団が、その世界最高峰の美しいハーモニーで甘美な旋律を歌い上げてくれることだろう。

■ ドビュッシー

「海」〜3つの交響的素描

この曲は、交響詩とも言われるが元々は3つの交響的エスキス(素描)と題され、作曲家自身、交響的習作ととらえていたようだ。この曲は優れたオーケストレーションにより色彩の冴える鮮やかなパレッ



マックス・ボンマー

トから描き出された作曲家の代表的管弦楽作品。彼は、単純に海の光景を描いているのではなく、自然の中にひそむ運動性やエネルギーに着目して、それを海の動きに託したのだ。

## 第600回定期演奏会

6月9日(金) 19:00  
6月10日(土) 14:00  
指揮 マックス・ボンマー

■ モーツァルト

交響曲第39番 変ホ長調  
交響曲第40番 ト短調  
交響曲第41番 八長調  
「ジュピター」

モーツァルトの(最後の)3大交響曲は、1788年夏の約3ヶ月間という短期間で立て続けに作曲された。どのような目的で作曲されたかは現在も謎だが、困窮した生活を支えるためのおそらく予約演奏会のために書かれたものと考えられる。いずれにしてもこの3曲は、交響曲史上奇跡的な結晶と言うべき傑作群であることに間違いない。

明るく優美な響きを湛えている第39番の第1楽章は「リンツ交響曲」以来、交響曲にゆるやかな序奏を置き、いつそう高い完成度で進化した。序奏後の作曲家得意の「歌う

アレグロ」が流れ、明朗で優美な旋律が流麗に駆け抜けていく。心を癒してくれるようにはじまる第2楽章は、(短調部分で激しい情感を抱きながら、再び穏やかさが戻る。第3楽章は、堂々としたメヌエットの壮麗さに挟まれたトリオが至高の美しさを感じさせ、完璧ともいえる構成美を持つ終楽章が、躍動する音楽の世界を繰り広げていく。

第40番は、彼の交響曲中でわずか2曲という短調作品。あのもの悲しくも美しい旋律ではじまる第1楽章は、聴き手に強烈な印象を与え、それまでの快活で明朗な古典派音楽とは一線を画するロマンチックな雰囲気漂わせている。当初は、フルート、オーボエ、ファゴットだった木管楽器は、後に作曲家自身が当時新しい楽器だったクラリネットを加え、より豊かなオーケストレーションで仕上げた。

第41番は、第1楽章にはじまる気宇壮大な音楽がいやがうえにもその期待を大きくふくらませる。静かな中にも、深い情感があふれる第2楽章の対位的展開部は、終楽章の壮大なフーガを予見させ、快活なメヌエットを経て壮麗な終楽章へと突き進んでいく。「ジュピター」という副題は、作曲家自身がつけたものではないが、ローマ神話の最高神の名の通り、その典雅で堂々としたこの作品にふさわしいものだろう。

第601回定期演奏会

7月7日(金) 19:00

7月8日(土) 14:00

指揮 秋山 和慶  
ヴァイオリン 神尾 真由子

■チャイコフスキー

ヴァイオリン協奏曲 二長調

パリでラロの「スペイン交響曲」を聴いたチャイコフスキーは、サラサーテが演奏するその曲に大感激し、自分もロシアの民族的要素を内包するヴァイオリン協奏曲を作曲しようと決意する。当時、不幸な結婚生活に破れた後、メック夫人の援助を受けスイスで神経衰弱の療養をしていた作曲者は、友人のヴァイオリニスト、コテックの助言を受けながらわずか1ヶ月たらずでこの曲を完成させた。順調な作曲に反し、初演は難航。当初、この曲を献呈しようとした大御所アウアーに演奏不可能と言われ、やっとこぎ着けたウィーンでの初演でも音楽評



秋山 和慶

論家ハンズリックが、「粗野な悪態を聞き、安酒の臭いを嗅ぐようだ」と酷評した。しかし、初演したヴァイオリニスト、プロズキが普及につとめ、ロシア民衆が自分たちの音楽として受け入れる中、評価も高まっていった。まさにロシアの力強い民族的味わいが堪能できる作品だ。

■シヨスタコーヴィチ

交響曲第5番 二短調

時の政治体制に翻弄された芸術家は古今東西実多いが、シヨスタコーヴィチもその代表例だろう。彼は1936年にソ連共産党の機関誌「プラウダ」でオペラ「ムツェンスク郡のマクベス夫人」が、「西欧かぶれのした形式主義的な作品」と烙印を押され、その頃書いた進歩的な交響曲第4番を取り下げている。そして、厳しい批判に應える形で作曲されたのが交響曲第5番。この曲は「苦悩から歓喜へ」という明快な構成により初演は大成功を収め、名誉回復を果たした。しかし、



神尾 真由子 ©Shion Isaka

響定期で、朝日がまばゆく照らす情景を想起するようなすばらしい演奏を聴かせた。今回は円光寺雅彦が、2作目で最も人気の高い「謝肉祭」を聴かせる。前作と

それから40年あまり経って「シヨスタコーヴィチの証言」が出版され、「あの曲は強制された歓喜で、これが一体どんな礼賛だというのか。それが聞き取れないとは耳がないのも同然だ」と書かれている。この証言は、恐らく偽書だという評価が定着しつつあるものの単に体制におもねった作品では無いはずだ。

札響名曲シリーズ

大地のシヨパン

6月24日(土) 14:00

指揮 円光寺 雅彦  
ピアノ 遠藤 郁子

■ドヴォルジャーク

序曲「謝肉祭」

ドヴォルジャークがアメリカにわたる以前の作曲家としての最盛期を締めくくる傑作となったのが演奏会用序曲3部作である。この3部作の1作目「自然の王国」は以前、エリシユカが札

は対照的に澁刺とした楽想が展開する。躍動するリズムと哀感のある旋律が印象的でタンプリンやトライアングルなどの打楽器が彩り豊かにこの曲を盛り上げていく。

■シヨパン

ピアノ協奏曲第1番 ホ短調

二十歳前後の青年が、恋いこがれる女性を思いながら素敵な協奏曲を作曲する。そんなロマンチックな背景で書かれたのがこのピアノ協奏曲だ。シヨパンは、ソプラノ歌手のコンスタンテニア・グラドコフスカに恋心を抱いていた。1830年10月にワルシャワでおこなわれた彼の告別演奏会でこの曲は初演されたが、この時彼女も出演している。この第1番のホ短調作品の前に第2番へ短調作品がつくられているのだが、へ短調作品のオーケストラ譜を出版社に送るのが遅れたため、ホ短調作品が第1番となった。彼女への思いは、すでにへ短調作品の緩徐楽章にも内包されているが、ホ短調作品のアダージョ楽章にも思いが委ねられていることは明らかだろう。しかし、シヨパンの彼女への言葉による告白は最後までなかった。

ポーランド共和国聖十字功労勲章を叙勲したシヨパンのスペシャリスト遠藤郁子が作曲家の心情を鍵盤から映し出すことだろう。

円光寺 雅彦 ©K.Miura



遠藤 郁子



■ムソルグスキー(コルサコフ編)

交響詩「はげ山の一夜」

酒に溺れて孤独な終焉を迎えた作曲家はフォスターばかりではない。42歳で亡くなったムソルグスキーもその一人。しかも、彼の代表作は死後に他の作曲家が編曲して有名になったものが多い。作曲家としては自信作だったこの交響詩は、演奏者に拒否され合唱を加えるなどの工夫はしたものの結局生前には演奏されなかった。リムスキー＝コルサコフは、遺品の楽譜の山からこの曲を発見し大幅な手直しを経てムソルグスキーの死から5年後に発表し、映画「ファンタジア」でも取り上げられるほどの名曲となった。近年は原典版も演奏されることが多くなつてきており、昨年のPMFでもお聴きになった方がいる

のではないか。今回はお馴染みのコルサコフ編で演奏される。

■ハチャトゥリアン

「剣の舞」「子守歌」「薔薇の乙女たちの踊り」「レズギンカ」

「ガイーヌ」より

バレエ音楽「ガイーヌ」にある「剣の舞」は、誰もが一度は耳にしている名曲。この曲を作ったグルジア出身のアルメニア人作曲家ハチャトゥリアンは、劇音楽として「仮面舞踏会」を1941年に作曲した。その3年後、この劇音楽から作曲家自身が5曲を選び2管編成の管弦楽組曲として再編成している。

■ボロディン

「イーゴリ公」より

ダツタン人の踊り

12世紀キエフ公国分裂時代、イーゴリ公が南方の草原地帯に現れた遊牧民族ボロヴェツツ人(ダツタン人)と戦う愛国物語をボロディンは未完のオペラとして残した。その後リムスキー＝コルサコフとグラズノフが共同でまとめあげたのが現在の歌劇「イーゴリ公」だ。特に第2幕で演奏される「ダツタン人の踊り」はボロディンの作品の中でも最も有名で、ミュージカルや藤澤ノリマサなどが旋律を流用し、ポピュラー音楽としても親しまれている。

♪ 楽員さんに興味津津！ ⑬ ♪

## ♪ ヴァイオリン奏者 竹中 遙加さんに聞く

### ♪ 札幌っ娘です

生まれも育ちも札幌です。6年前からは仕事も札幌ということになりました。実家は西区の宮の沢で、小学校、中学校は、上手稲神社という小さな神社の近くにある「宮の

丘」、高校は手稲前田にある手稲高校でした。

ヴァイオリンを始めたのは3歳からです。自分から

やりにくく始めたのでも、親に勧められたのでもありません。近所の子がお母さんに連れられて教室に行くと言っているので、それについて行っただけです。ヴァイオリンを習うというより、その子と同じものをやりたいと思っただけでしょうね。親はいずれピアノをやらせたいと思っていたようです。

その後ずっと個人レッスンを続けていたのですが、そのことがほかのの、ヴァイオリン一本に絞りたい

吹奏楽入部には迷いもあつたものの、ヴァイオリン一本に絞りたいという気持ちも中学3年生の頃に果になりました。

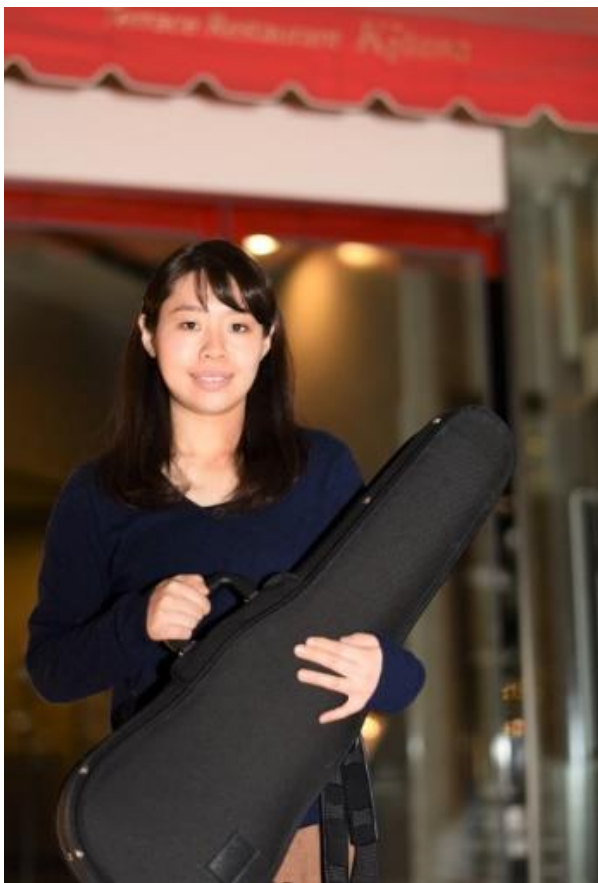
### ♪ 札幌に戻りたくて

大学は東京芸大でした。東京に4年間いて、その後は京都に2年間、京都市立芸大の大学院に行っていました。そして、修士課程の2年生のときに、ちょうど札幌のオーディションがあつたんです。

オーディションは札幌しか受けませんでした。とにかく札幌に戻って来たいというのがあつて、それなら仕事は札幌しかないと思いましたが、ここまで、自分でも驚くほど順調すぎるくらい順調でしたし、プロのオーケストラで演奏した経験も数える程度。入団してから苦労しないうかという不安はありましたね。

3週間くらいの短い期間でしたが、習っていた先生について行くという形でアメリカやドイツ、フランスに行ったことがありまして、大学生の時は留学して音楽を勉強したいという気持ちはあまりありませんでしたが、就職してからもアフィニス音楽祭に参加したり、個人的にレッスンの受講や聴講をして、いろんな先生方、演奏家の方々と知り合う機会も増えました。札幌でいろんな指揮者、ソリスト、そして団員の方々の目の当たりにして、さらに腕を磨いていきたい気持ちが強くなりましたね。

## まわりの音に溶け込むように



### プロフィール

札幌市出身。3歳からヴァイオリンを始める。毎日学生音楽コンクール金賞、全日本学生音楽コンクール東京大会入選など数々のコンクールで受賞。また、ソロ・室内楽においてピバリーヒルズ国際セミナー、とやま室内楽フェスティバル、旭川・ウインター国際ヴァイオリンセミナー講師と受講生コンサート、練馬区役所アトリウムミニコンサート、JTホールアフィニス期待の音大生によるアフタヌーンコンサート等に出演。東京芸術大学音楽学部卒業。京都市立芸術大学大学院修士課程を2011年3月修了。これまでに浦川宣也、水野佐知香、漆原朝子、四方恭子、池上依の各氏に師事。2011年3月1日札幌交響楽団に入団。

### ♪ 伸び伸び自発的に！

札幌ではわりと自由に弾かせてもらっていると感じています。まだまだ出来ていないこと、課題は数えきれないほどですが、ようやく周りの見え方、呼吸の合わせ方が見えてきたと思います。もつと自



日本弦楽教育研究会第2回  
独奏会で、4歳の頃



2016年7月に七ヶ浜で演奏会

供達に楽器を実際に触らせるコーナーなど有名で馴染みのある小品ヴァイオリンソナタなど、勉強して感覚を磨くようにしています。

また、昨年7月末には宮城県七ヶ浜というところに、芸大時代の作曲科の同級生と演奏をしに訪ねました。そこは海沿いで、2011年3月の震災の影響も大きかった場所です。被災地と呼ばれているところ

で演奏するのは初めてで最初は不安に思いましたが、七ヶ浜の皆さんはとにかく明るく優しく、こちらが元気をいただいたくらいでした。ちょうど昨年、震災以降初めて海開きをしたらしく、合間には花火大会をしたり海に入ったりして楽しむ時間もありました。

聴きに来てくれた中学生の女の子が、ヴァイオリンを習いたかったけれど七ヶ浜には教室がないと言っていたので、またいつか演奏しに行きたいですね。

「運命」を指揮者なしで！

ツプをとって、みんなをひとつにまとめていく力はすごいなあと思います。コンマスの席に座っているだけでみんなの力を引き出すというか、そういうパワーがあって、心強く感じました。何より、自分の気持ちに常に前向きでいられた気がしましたね。

その日のプログラムは「運命」、さらにシュティイデさんの「弾き振り」によるモーツァルトの「ヴァイオリン協奏曲第3番」と「アイネ・ナハトムジーク」と「アイネ・クライン・ナハトムジーク」というものでした。「運命」を指揮者なしでできるんだなあという印象が強かったですね。楽しい演奏会でした。シュティイデさんは今年もいらっしやるみたいですので、楽しみです。

彼は毎週末に走ったり、サッカーのクラブに所属していたりスポー

2017年2月4日  
テラスレストランキタラ  
担当/井上村山塚田中居

## ♪ 室内楽も楽しくて

大学的に積極的に弾くことが一番の課題なのですが、周りを見渡すと、自分の音が周りに溶け込んでいくように心がけています。その辺を

バランスよく、冷静に周りを聴くことも大事だけれど、音楽を心から感じ取って演奏できるようになりたと思っています。

大学在学中にはカルテットでよく合宿に行ったりしていました。少人数で弾く室内楽もすごく好きなので、続けたいと思っていて、札幌では2月にワークショップで弦楽五重奏をやりました。

平岡小学校を訪ね、ドヴォルザークの弦楽五重奏のほかにバーバー、モーツァルトの「アイネ・クライン・ナハトムジーク」、それと校歌を演奏しました。演奏が終わった後、子供達に楽器を実際に触らせるコー

入団してからオーケストラの曲ばかり見ていましたが、クライスラーなど有名で馴染みのある小品ヴァイオリンソナタなど、勉強して感覚を磨くようにしています。

札幌を聴きに来てくれるお客様は、熱心に音楽を感じて、温かく聴いてくださっているなあという印象を持っています。

3月に100万人クラシックライブでピアノとデュオ

ばから山鼻の方に引越しました。実家は部屋から手稲山が眺められました。今住まいからは藻岩山が見え、なんだか似たような景色で嬉しくなりました。

まだ住んでから日も浅く、片付けや新生活に慣れるので精一杯なのですが、周りを散歩したいですね。歩くことは好きなのでよく歩いています。新居から最寄りの幌平橋駅までは20分ちよつと、キタラにも30分以内で着きそうなので体力作りに良さそうです。

## ♪ 二人で円山へ

実は今年の2月に結婚しました。ヴァイオリンの友人の紹介です。

演奏旅行で道内のいろいろなところに行くようになって、観光名所に行ったり御当地の物を食べたりしています。昨年の夏は奥尻に行き、ウニやワインもいただきました。車の免許も取りましたし、車もありませんので、札幌市内ばかりでなく、今度は時間を見つけてほかの所へも出かけてみようと思います。

「札幌くらぶ」には交流会やサロンなどいろいろの会があるそうなので、これからはそこにも顔を出していきたいなあと思っています。サロンでの演奏も是非させていただきますと思います。

これからの演奏活動としては、オケのほかにソロもカルテットも機会があればやっていきたいし、古典もの、特にベートーヴェンを中心に音楽作りの基礎となるものもしっかり弾けるように勉強していきたいと思っています。

# 札幌「楽譜庫」を訪ねて

ライブラリアン中村大志さんに聞く



中村さん Twitter @ssolibrary

います。

「楽譜庫」には約2000曲の楽譜が、作曲者のアルファベット順に所狭しと並べられています。楽譜を入れたおく専用の紙袋も徐々に傷んでくるので、順次新しいものに取り替えているそうです。

「現在」の仕事とは、「現在進行中」のりハーサルで楽譜の問題が起

2月3日(金)、私達は札幌の「楽譜庫」を見学させていただきました。それは札幌の練習場である芸森アートホールの片隅にありました。大量の楽譜が保管されているこの部屋は楽譜の整理作業をする場所も兼ねていて、かなり手狭な感じを受けました。

中村さんによると、「ライブラリアンの仕事は時系列によって大きく未来・現在・過去の3つに分類できる」ということでした。

## 仕事は未来・現在・過去

この「楽譜庫」で楽譜の管理を一手に引き受けているのが、ライブラリアンの中村大志(ひろし)さん。中村さんは中学時代にコントラバス、大学ではオケでファゴットを担当していたそうです。その後は読響、東フィル、サイトウキネン・オケ、小澤征爾音楽塾などでライブラリアンまたはスタッフとしての経歴をつんで、2008年10月から札幌のライブラリアンをつとめて

「未来」に向けての仕事はこれらの公演で使う楽譜を準備することなのですが、単に楽譜を棚から取り出して、「事足れり」というわけにはいきません。時には演奏曲目の楽譜に関することを調べて、購入したりします。著作権の関係で購入できないときなどは、レンタルの手続きを進めます。レンタル先は、場合によっては海外の出版社や個人のこともあります。申し込み等の連絡はメールで行っています。レンタル料は、ピンキリですが、高い時には

1回20万円〜30万円になることもあります。

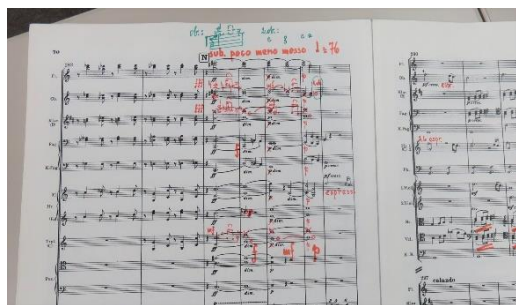
また、指揮者がりハーサルの前に伝えたいことがあれば、その指示をすべての「パート譜」に前もって書き入れておきます。ボンマーさんからも、エリシユカさんからも毎回細かな指示が事前に送られてきます。これが膨大な作業で時間もかかるのですが、現在は優秀なアシスタントのサポートもあって、なんとかりハーサルまでに終わらせることができています。楽譜は2〜3ヶ月先の公演で使うものまで準備するようになっています。

「現在」の仕事とは、「現在進行中」のりハーサルで楽譜の問題が起

こつたとき、それに適切に速やかに対処することです。一度使ったことのある楽譜で問題が起ることはあまりないのですが、初めて使う楽譜では音符が抜けていたり、間違っていたりすることがよくあります。「過去」の仕事とは、要するに「後始末」ということなのですが、終了した公演の楽譜を点検して、再び整理保管することです。その際、演奏した日時、曲目、レンタルの有無等を記録に残していますので、「過去」の仕事は、同時に「未来」への仕事でもあるわけです。

## 書き込みは財産

楽譜は使用されるとその都度書き込みが加えられて帰ってきます。



ならないこと、やりたいことはたくさんあるのですが、80名弱の楽員に対してたった2名で対応しており、実際の作業が追いつかないのが残念です。

保管されている楽譜の中には、札幌にしかないものもあります。ゆくゆくはそういう曲や北海道の作曲家の曲、北海道に関係した曲を再演できるようにデータベース化したいと考えています。

## 楽譜支援に感謝

トラに比べてよい状態の楽譜を用意することが可能になっています。よい楽譜はすなわちよいりハーサル、よい本番へとつながっていくことになりま。つまりこの楽譜支援は近年の札幌の演奏力向上の一翼を担っていると言っても過言ではないと思っています。

以上が中村さんからお聞きしたことを、中村さんが直接お話しした形にしてまとめたものです。当日は「名曲の前日でしたので、「楽譜庫」の見学中はずっと「ペー

それは次回以降の演奏に役立つことなので、消したりはしません。そこどころか札幌独自の書き込みとして世代を超えて受け継がれて、札幌の伝統につながっていくものです。「楽譜庫」に保存されている楽譜は札幌にとつて最も重要な財産になっています。

私は北海道(滝川市)出身でもありますので、札幌がどんどん発展して行くことを心から願っています。札幌のために私がやらなければ

「札幌くらぶ」の楽譜支援事業のことを他のオーケストラの関係者に話すと、とても驚かれ感心されました。それは使途を楽譜に関するものと限定していることが画期的だからです。演奏しようと計画したものの楽譜を持っていないため、購入費節約という理由で曲目を変更したり、古くなった楽譜を買い換えたということは多くのオーケストラで起っていることです。札幌ではこの楽譜支援のおかげで、他のオーケス

た。担当/村山・中居



## 映画と音楽と

## スウェーデン映画とK467

今回は私の昔の苦い思い出の映画と、素敵な音楽の話をしよう。

私が20代の時、狸小路の映画館で見た1967年(昭和42年、日本封切は翌年43年)スウェーデン映画「みじかくも美しく燃え」。音楽はモーツアルトのピアノ協奏曲第21番ハ長調K467第2楽章アンダンテ。

妻子あるスパーレ中尉は、サーカスで綱渡りをする娘エルヴィラと恋に落ち、軍を脱走する。おさまりの通り追いつめられ、また所持金も尽きる。

K467は、あまり演奏会で聴かれない名曲ですが、私はこの映画で初めて知りました。モーツアルトの中でも特にこの2楽章アンダンテ

語。この映画以降、K467と「みじかくも……」は、切り離せないほど有名になった。

当然ながら1枚のLPを購入。ジャケットに「68・5・25 札幌・玉光堂」と署名している。今から49年前、映画を見た当日ではないかと思う。ピアノ・リリー・クラウス、ステイブン・サイモン指揮ウィーン・フェスティバル管弦楽団。リリー・クラウスは、モーツアルトのピアノ協奏曲全曲を次々とレコード化している時期だった。当きつてのモーツアルト弾きと言われた頃である。

二人はあり金を使い切った食料を持って、森の奥深くに入って行く。やがて食事も済み、これからどうなるかを暗黙に理解したエルヴィラは、やおら立ち上がって美しい蝶を追う。画面はスローモーション、エルヴィラは最高の笑顔、やがてスパーレ中尉はピストルの引き金を引く……。かぶさるK467アンダンテのメロデー。

スウェーデンで実際に起こった事件を映画化した、悲しい愛の物語

映画の原題は「エルヴィラ・マテイガン」とヒロインの名前だそうですが、邦題は「みじかくも美しく燃え」。内容を的確に表したタイトルだと思ふ。この映画を見ていない方は是非見て頂きたい。ハンカチを持って。

会員/高橋明夫

## 札幌くらぶ

## 総会&amp;サロンのご案内

2017年(平成29年度)札幌くらぶ総会は、「会員さんが集う総会」をめざし、サロンの中で試行開催します。サロンに来られた会員はもちろん、友人知人の方々にも総会にご参加をいただき、札幌くらぶを知っていただく好機とさせていただきます。皆様のお越しをお待ちしております。

札幌くらぶ副会長 西川吉武

日時

2017年6月3日(土)18時~

場所

豊平館2階広間

内容

総会/ミニコンサート/交流会

3月14日(火曜日)

東京芸術劇場

## 札幌と私 「エリシュカ&amp;札幌」東京公演を聴いて

念願だった「エリシュカ&札幌」の東京公演に行った。

わざわざ東京まで聴きに行くという、凄くクラシック通だと思われるが、私はクラシックに関しては素人。札幌の定期会員になったのも仕事をリタイアして時間に余裕が出来た時からのので、やく十年目。札幌の透明感のある音色に、疲れた心が洗われるように感じ、すっかり虜になってしまった。それ以来、毎年定期と名曲を欠かさず聴いている。おかげで様々な曲に出会えたり、作曲家や楽器に関する知識も増えた。自分の感想と同じ人がいて嬉しかったり、反対に違う人がいると、そう感じる人もいるのかと妙に納得したりもした。それが芸術なのだ。

その内、東京公演ではどんな反響なのだろうという好奇心が湧いてきた。多くの公演がある東京、そして恐らくは耳が肥えているだろう東京の人が、わざわざ札幌を選んで聴きにきてくれる。それを自分の目で確かめてみたい。

サントリーホールのリニューアル工事のため、今年の会場は東京芸術劇場。大きな広い会場で1階から見上げると3階席ははるか遠くに見える。その会場がほぼ満員。開演前から熱気に包まれていた。エリシュカさんの登場で一段と大きな拍手があり、そして始まった。

やっぱり、「エリシュカ&札幌」は素晴らしい。

3月14日東京芸術劇場

札幌東京公演のエリシュカ

◎浦野俊之



らしかった。本当に美味しいものを食べた時、「美味しい!」としか言えないように、「素晴らしい!」としか私は言えない。メンデルスゾーンもシューベルトも、私を夢見心地にさせてくれた。そしてブラームス、最初の音が鳴った瞬間「音が変わった!」と思ったのは何故だろう。ぐいぐい引き込まれていった。エリシュカさんの楽員に注ぐ優しい眼差し、力強い指揮、一体となって演奏する札幌のメンバー、最高だった。

会場にブラボーの声と歓声が響く。そして万雷の拍手。鳴りやまない拍手に、エリシュカさんは何度ステージを往復しただろう。指揮者と演奏者、お互いを讃える笑顔。ステージも客席も一つになっていた。来て良かった。東京の人達とこの場の雰囲気共有することが出来て本当に嬉しかった。そしてなぜか、誇らしい気持ちだった。

会員/定政みち子



5月10日(水) 午後7時開演

真駒内六花亭ホール店 2000円(学生 1000円)

ピアノニストは高校の1年後輩です。お互いに切磋琢磨しながらこの道を歩いて来ましたが、今でも共演するたびに新鮮な刺激をくれる音楽家です。春風に揺れるスズランが美しい季節に、ドイツの作曲家が残した素晴らしい作品をお送りします。

札幌ヴァイオリン 岡部亜希子

## 600回記念 札幌練習見学会

2017年6月8日(木)

午後1時30分～4時

(1時～1時25分に集合)

練習見学会とミニトークも!

札幌コンサートホールキタラ大ホール

札幌くらぶ会員と同伴1名(未就学児不可)

150名限定・応募多数の時は抽選

下記の4つを記載したFAX

または、はがきの郵送で応募

FAX 011-520-1772

はがき 〒064-0931 札幌市

中央区中島公園1-15札幌交響楽団

「600回記念 練習見学会」係

締め切り 5月22日(月)

結果通知 5月29日(月)

(同封のプリントを「ごらんください」)

- (1) 札幌くらぶ会員番号
- (2) お名前 (参加者全員の名前)
- (3) 電話番号
- (4) 案内のお届け先 FAXまたは住所

## スタッフの活動報告

2017年1月～3月

01月25日(水)

会報「札幌くらぶ」第77号発行

01月26日(木)

札幌練習見学会

01月28日(土)

「札幌市内中学校吹奏楽部  
招待事業」真栄中 25名

02月6日(月)

第10回運営会議

03月5日(日)

第17回札幌くらぶサロン

03月11日(土)

「札幌市内中学校吹奏楽部  
招待事業」中の島中 18名

03月28日(火)

第11回運営会議

(詳細は札幌くらぶホームページで)

でしようか・・・ (上野)

## 編集後記

▼春を真っ先に感じる野鳥達は、それを気温ではなく太陽の光の明るさで知るといふ。二月ともなると、まだ雪深い北国の森でも恋の相手を求める囀りが響きわたる。寒さに負けじと力強く、音程もすこぶる良い。恋の歌を歌うのはもしかして鳥と人間? (鳥)

▼19世紀後半のウイーンではワグナー派とブラームス派が対立していたそうです。音楽性も私生活も両極。共通点はベートーベンの後継者。性格もベートーベンの傲慢さはワグナーが、偏屈さはブラームスが引き継いでいるようです。ベートーベンは傲慢で偏屈?それは芸術家にとっては誉め言葉なのでしよう。(ヒロシ)

会員/井上明子

▼札幌くらぶサロンのミニ・コンサートで「早春賦」を歌う機会がありました。早春の情景を歌った歌詞ですが、いまいちピンときません。「ヒグマが冬眠から覚めて街にひよつこり出てきた」とか、札幌の替え歌バージョンがあつてもいいのになくと思つていますが、いかが

(上野)

ボツチチェリの「プリマベラ」

が目を惹いたので手に取ると「東京

ヴィヴァルディ合奏団」が演奏して

いるCDのジャケットだった。

A・ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲集「四季」

フルート協奏曲へ長調「海の嵐」

ヴァイオリンとチェロのための

協奏曲へ長調「プロメテウス、ま

たは世界の転覆」

どんなアンサンブルなのだろう?

ヴィヴァルディといえば、イ・

ムジチと昭和世代の頭にはしっか

り刷り込まれている。イ・ムジチは

何度も来札しているので勿論聴き

に行った。本棚の隅を探すと

イ・ムジチ創立二五周年札幌公演

一九七七年十一月七日

北海道厚生年金会館

プログラム

モーツァルト

セレナード第13番 ト長調

K525

アイネ・クライネ・ナハト・

ムジック

バスハ

チェンバロ協奏曲 一長調

ヴィヴァルディ

協奏曲集「四季」春・夏・秋・冬

解説の中に興味深い箇所があつ

た。イ・ムジチ合奏団の魅力という

タイトルで『思いつくのは、六七年

のイ・ムジチ来日折、日比谷公会

堂でのコンサートのと、高輪のホ

テルでイ・ムジチを囲む会のこと

である。ここで最初に東京ヴィヴァ

ルディ合奏団が「四季」の「春」を演

奏した。これがなかなかよかつた。

イ・ムジチのメンバーも真剣な表情

で耳をかたむけ、終わるとさかんに

質問をあげかけた。「君たちは何

者なのか」「東京芸術大学を卒業し

た若い演奏家のグループである」

「それにしては立派なものだ、われ

われもうっかりしてはいられない」

イ・ムジチはローマのサンタ・チェ

チーリア音楽院の卒業生のあつま

りである。在学中から演奏活動を開

始してその最初から輝かしい評価

を得た。日本のグループに、そうし

た彼らのかつての姿を見たのであ

る。』という箇所、東京ヴィワ

ルディ合奏団はそんなに古くか

らあつたのか?改めてCDの解説

をよく読んでみると一九六一年創

立と有る。五六年もの歴史を持つ合

奏団だったのだ!

イ・ムジチのレコードと東京ヴィ

ヴァルディ合奏団のCDを聴き比

べてみようと思いつつ実行できな

いである。プレイヤーがないのだ。

ジャケットの話に戻るが、「プリ

マベラ」はピアノニストのアルド・

チッコリーニもモーツァルト・ピア

ノソナタ集、第一巻・第二巻のCD

のジャケットに使っている。

ウフツツイ美術館でしみじみ見

た「ヴィーナスの誕生」と「プリマ

ベラ」は夢のように美しかった。

もう一度あの絵に会いに行きたい。

美しいフイレンツェへ。